

# 若狭ネット

第136号 2012年 3月 4日

発行：若狭連帯行動ネットワーク

代表連絡先 福井：〒915-0035 越前市

入谷町13-20 山崎方 TEL0778-27-8621

大阪：〒583-0007

藤井寺市林5-8-20-401 久保方

TEL072-939-5660 ホームページ

<http://www4.ocn.ne.jp/~wakasant/>

E-mail : wakasa@gaea.ocn.ne.jp

## 「放射線副読本」の撤回・回収を！ 「原子力利用の推進」でなく、脱原発を実行する 原子力規制庁の発足を！！

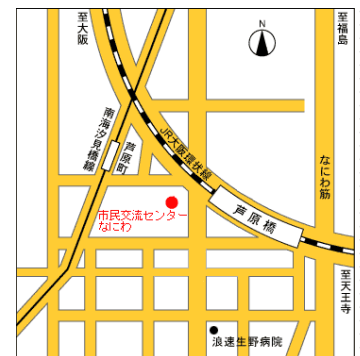
3月18日(日) 午後1時半～4時半

斑目さんの「瑕疵でした」証言で政権にビビリ震動・・・  
4月発足予定の規制庁は救世主か？脱原発学習会



主催：若狭ネット

場所：大阪市立市民交流センター  
なにわ 201号室  
(JR環状線芦原橋駅下車すぐ)



クボ 072-939-5660

## 文科省の放射線副読本の廃止、撤回を求めて

3月23日 (金) 12時集合 文科省交渉

場所：衆議院第2議員会館 第2会議室

主催：若狭連帯行動ネットワーク、ヒバク反対キャンペーン、  
地球救出アクション97

そして、副読本撤回を求めて  
全国署名を開始します。多くの賛同を！

老朽原発の廃炉！  
事故の徹底究明



## フクシマの現状から学び、「人権の尊重、命の大切さ」を子どもたちの教育に生かそう

2月25日、「教育現場から放射能の危険性を考えるフクシマ連帯集会」を持ちました。会場は満席となり、教員・市民約110名が参加しました。

この集会で、フクシマ県教組の國分さん、大槻さん、中地さんの話の内容は、私たちの心を強く揺さぶるものでした。

フクシマ原発事故により、子どもたちは故郷での「生存権」を奪われ、能力を全面的に発達させるための「学習権」、「教育の機会均等」を著しく侵害されるという深刻な実態が報告されました。福島県の教育現場は、大きな困難と危機的状況に置かれているのです。

放射性物質で汚染された地域で暮らす人々、特に子どもたちの命と健康が脅かされています。子どもたちの確かな安全を確保するため、あらゆる対策の実施を粘り強く求めていかねばなりません。

- ・ 学校給食をはじめ、食の問題をどうするか。
- ・ 子どもの人権を軸にした「放射線教育」の指導資料作成。
- ・ 学校現場で、1年間様々な学習活動の制限など。

私たちはフクシマの教育現場の実状を真剣に受け止め、福島の教職員の皆さんが提起する課題を共有し、解決の方向と一緒に考えていかなければなりません。

### 脱原発、被ばくをもたらず放射線の危険性を明確に教える教育を

文科省が発行した「放射線」の副読本には、「人権の尊厳、命の大切さなどを基本に据え、放射性物質に



汚染された土地で生活をする人々によりそう」という教育内容はまったくみられません。唯一、「受ける量はできるだけ少なくすることが大切」とするだけなのです。

「どうすればよい被曝をしないようにできるのか」、「被曝した場合どうすればよいのか」など具体的な対処には全く触れていないのです。

私たちも副読本を批判するリーフレットを作成しました。(副読本批判リーフレット フクシマへのカンパ含めて100円で販売。ご希望の方はクボ072-939-5660へ)

### フクシマとの連帯を拡げ、強めよう

本集会を契機に「お互いに顔の見える」関係をめざし、つながりを拡げ、強めていきましょう。

物的支援、「心の支援」もめざし、被災地の人々との様々な交流を通じて、お互いに友人・仲間としてともに助け合っていく関係を築いていきましょう。

放射能汚染、健康被害、教育と生活困難、政府による被災者対策・医療の切り捨て…。現地の実情に即した支援のあり方、若い世代の交流、次世代の健康影響や低線量被ばくの影響の問題、などなど…。

「繰り返さないで！フクシマ」を胸に息の長い支援と交流を続けてゆくと同時に、「フクシマと連帯し、日本の全ての原発を閉鎖させました！」と言える日が一日も早く来よう、「繰り返さないで！フクシマ」の思いを胸に、皆さんとともに一步ずつ進んでゆきたいと思いません。3月23日には、「放射線」副読本の撤回を求めて、文科省交渉を予定しています。一緒に参加して、文科省の責任をともに追及しましょう。

また、今回のフクシマ連帯集会の成果を受け、集会共催団体や協賛団体等と力を合わせて、文科省に対して副読本の撤回、回収を求める全国署名を開始します。教育現場をはじめ子どもたちの未来を危惧するすべての声を結集し、放射線被曝の危険性を過小評価する「放射線」副読本を撤回させ、原子力推進教育をやめさせましょう。是非ともご協力をお願いします。

### 国の事故の幕引きと原発延命を狙う動き

政府は福島事故1周年を前に、事故の幕引きと原発延命に向けた動きを強めています。

4月には、国民の信頼を完全に失った原子力安全委員会と原子力安全・保安院を共に廃止し、環境省の

下に「原子力規制庁」を新たに発足させ、原子力規制行政が一新されるかのように振る舞おうとしています。

原子力規制庁は、原子力推進行政を担う経済産業省や文部科学省から「独立」するかのようには見えますが、庁舎は経済産業省の建物の一画に置かれ、「保安院」から多くの職員が横滑りするとされています。これでは、政府から独立した機関とは言えませんし、温暖化対策のために原発推進を容認してきた環境省の姿勢を変えられるはずありません。

野田政権は「脱原発依存」を進めるとの方針を掲げていますが、「組織改革」で原発再稼働・延命策を弄し、原発の寿命延長や定検合理化による設備利用率アップで巻き返し、あわよくば原発輸出をも強引に進めようと画策しているのです。

実際、原子力規制庁設置に関する原子力基本法改正案において「原子力の研究・開発及び利用を推進する」との目的を変えてはならず、「発電のための原子力利用からは脱却する」との趣旨の文言は全く見られません。

また、後段では「原子力の研究・開発及び利用」を「原子力利用」と略し、「原子力発電所の研究・開発及び利用」を見えにくくしています。

そして、原子炉等規制法改正案では「これらの利用が計画的に行われることを確保する」との文言を「目的」から削除していますが、「原子力基本法」の精神にのっとり」と明記されていますので、「原子力利用の推進」を目的としている点は全く変わらないと言えます。

また、商業用原発の40年を超える運転は原則認めないとの「40年運転制限」を導入すると発表しましたが、「例外として、原子炉設置者から延長の申請があり問題がない場合は、一定期間の運転延長を認める」という規定を設けた「原子炉等規制法」の改正案を国会に提出しました。つまり、電力会社が運転40年を迎えるものに「さらに20年の寿命延長」を申請すれば、施設の劣化や余裕度を審査して、60年運転を認めるという原発延命策です。

しかも、重要な機器等がひび割れたままで原発の運転継続を認める維持基準と健全性評価制度が全面的に導入され、インセンティブ規制により定期検査間隔を長くして長期連続運転を可能にするなど、寿命延長と保守・点検の合理化を同時に図ろうとしているの



4月発足の原子力規制庁は、これからも原子力を推進します

です。

つまり、野田政権は、原子力規制組織見直し作業のどさくさに紛れて、これまで画策してきた米国並みの原発寿命延長と設備利用率アップの原発推進策を全面的に導入し、露骨な原発延命を画策しているのです。

福島第一原発重大事故で信頼を失墜した原子力安全・保安院と原子力安全委員会が行った緊急対策や安全基準の見直しは、場当たり的で部分的なものしかありません。そのほとんどは、津波対策だけであり、しかも、全交流電源喪失対策(非常用電源確保)やヒートシンク対策(非常用冷却水確保)など津波で破壊された後の対策に限られています。

共通原因による同時多発故障を考慮せず単一故障しか考慮していない設計や耐震重要度の低い建屋・機器を軽んじる設計など地震や津波で破壊されないための設計基準には何も手がつけられていません。

国会では事故調査委員会が設置され、事故原因究明の作業中であり、その調査結果に基づいて「行政組織の在り方の見直し」が提言される予定でした。

見直し提言前に、早々と原子力規制庁設置改正案が閣議決定されました。これには黒川清事故調査委員長が声明で抗議し「政府の決定の見直し及び国会における責任ある対応を求め」ているほどです。

斑目原子力安全委員長は2月15日の国会事故調査委員会で「原子力安全審査指針類に瑕疵がある」と認め、新組織で全面的に安全基準を改定し、安全審査をやり直し、新基準に満たないものは廃止すべきだと証言しました。

事故原因・過程を徹底的に究明し、原発の安全基準を抜本的に見直し、原子力規制の在り方を根本から見直すべきです。「脱原発依存」を目的とする原子力規制当局を設置し、新しい安全基準の下で安全審査をやり直すべきです。それまで、一基たりとも原発の再

稼働を認めるべきではありません。そして、安全基準に満たない原発は運転再開を認めず、30年超の老朽原発は無条件に閉鎖すべきです。また、使用済核燃料の安全な処理処分方策が見つからない限り、原発の運転を認めるべきではありません。

11ヶ月経っても、原子炉内部の様子はつかめず、出しっぱなしの水で冷やし続けているのみ

停止原発の再稼働、延命をはかるために、国は「フクシマ事故は収束した」かのように宣伝していますが、未だに収束していません。溶融・落下した核燃料がどこにどのような形で存在しているのかさえわからないまま、闇雲に仮設ホースで原子炉内へ水を注入し続けている状態です。通常の原子炉冷却システムは全く機能していません。

今後、大規模な余震・津波等でこれらの脆弱なシステムが破壊されるようなことがあれば、溶融落下した炉心の塊が再び融け出し放射能が大量に放出される危険性があるのです。また、放射能汚染水が環境へあふ

れ出す危険性もあります。

## 原子力基本法や原子炉等規制法の改定に「脱原発」を！

フクシマのような原発重大事故を二度と起こさないためには、国の基本方針として脱原発を明確に打ち出すべきです。

例外なき30年運転制限 = 老朽原発の閉鎖(廃炉)へ、そして、何よりも事故原因の徹底した究明と安全基準・規制の厳格化を図り、脱原発に沿った原子力安全規制を強化することが重要です。

原子力規制庁の4月設置や再稼働のための「ストレステスト」に関しては、黒川国会事故調査委員長の声明や斑目原子力安全委員長の証言に見られるように、政府・支配層内の動揺と亀裂が拡大しています。

政府と国会に向けた脱原発・反原発の行動を強めていきましょう。3月23日には、対政府交渉をおこないます。多くの皆さんの参加を呼びかけます。「放射線」副読本撤回要求署名への協力もお願いします。

日 程 予 定

### 3月11日(日) さよなら原発！3・11関西1万人行動

午前10時半から午後0時

中之島公会堂大ホールで

午後2時15分から午後2時45分

女神像前エリアで (若狭ネットは午後1時に集合)

午後2時55分から

御堂筋デモに

主 催: さよなら原発3・11関西1万人行動実行委員会

### 3月18日(日)午後1時半～ 4月発足予定の規制庁は救世主か？脱原発学習会 斑目さんの「瑕疵でした」証言で政権にビビリ震動・・・

場 所: 大阪市立市民交流センターなにわ 201号室 (JR環状線芦原橋駅下車すぐ)

### 3月23日(金) 正午集合 衆議院第2議員会館 エネルギー・原子力政策についての交渉

場 所 衆議院第2議員会館 第2会議室

主 催: 若狭連帯行動ネットワーク ヒバク反対キャンペーン 地球救出アクション97

### 3月24日(土) 午後1時半～4時半

1000万人アクション署名集約 集会 東京日比谷野外音楽堂

### 4月7日(土) 午後1時半～4時半

第1回「関西反核講座」 ヒロシマ・ナガサキから原発労働そしてフクシマへ  
ヒバクによる被害と受忍, ホシヨウを考える 村田三郎(阪南中央病院医師)

会 場: 常翔学園大阪センター 304会議室(毎日インテシオ3F)

主 催: 科学技術問題研究会 オザキ 0774-73-2496

### 4月8日《日》とめるんや原発 若狭一日バスツアー

森と暮らすドングリ倶楽部で、松下さんのお話

主 催: 3月行動を呼びかける女たち (協力:若狭連帯行動ネットワーク)

(申し込みは、3月10日まで、定員(49名)になり次第締め切ります。詳細はクボまで072-939-5660)

### 4月28日(土) 午後1時半から4時半

チェルノブイリとフクシマを結んで

場 所: 大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室 大阪駅前第2ビル5階

主 催: チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

若狭ネットニュース年間購読料 年2000円 です。よろしくお願ひします。

郵便振り込み口座 00940-2-100687 口座名 「若狭ネット」

#### 「編集後記」

・ 若狭ネットニュース年間購読料2000円、及びカンパなど、ご協力ありがとうございます。今まで以上に福井、福島、東京などへ行き来しなければならぬ闘いとなってきました。ニュースも多くの方に愛読を頂いておりましたが、私どもの実費負担で発送させて頂いたところもあります。

申し訳ありませんが、年間購読料を頂いていない方は止めざるを得なくなりました。長い間のご購読ありがとうございました。

なお、振り込みをお忘れになっていた方は、よろしくお願ひします。(振込先は、上記のところまで) きよ子